



消火器

リサイクルで守る、
くらしの安全と環境



消火器本体と、消火薬剤の リサイクルシステムを確立

使わずに済ませたいけれど、いざというときに必要な消火器。公共施設だけでなく、一般家庭でも常備するところが増えています。

消火器にはメーカーが定める耐用年数があります。耐用年数が過ぎた消火器は傷や錆びができて疲労していることがあり、消火に使用された場合や不適切に廃棄された場合の事故が心配されます。実際には、耐用年数を過ぎたことに気づかないまま消火器を持っている家庭や、消火器の処分に困っている家庭が少なくないのではないのでしょうか。

エコマーク認定の消火器は、耐用年数をすぎた消火器を回収して消火薬剤と消火器本体の金属部分をそれぞれリサイクルするシステムが整備されており、再生消火薬剤が使用されています。

さらに、本体や消火薬剤への有害物質の使用も抑えられており、くらしの安全と環境保全の両方に役立つことが期待されています。

エコマークは、環境保全に役立つ製品のしるしです

エコマークは、私たちのまわりにあるさまざまな製品の中で、環境保全に役立つと認められる製品に表示されています。生活者のみなさんがこのマークを見て、暮らしと環境の関係に気づいたり、環境に配慮した製品を選ぶのに役立っていただくことを目的としています。

消火器 Version 1.0

エコマークの基準は、回収・リサイクルのシステムの整備、再生消火薬剤の使用、本体や消火薬剤への有害物質の不使用等を求めています。

エコマークの下段には、「再生消火薬剤を〇〇%（以上）使用」「回収およびリサイクルシステムを持つ」という環境情報が表示されます。



再生消火薬剤を〇〇%以上使用
回収およびリサイクルシステムを持つ



再生消火薬剤を〇〇%使用
回収およびリサイクルシステムを持つ

消火器 Version 1.0 の環境に関する基準（抜粋）

- ① 消火薬剤は、再生材料を重量比で40%以上使用すること。
- ② 製品は、ハロゲンを含むポリマおよび有機ハロゲン化合物を処方構成成分として添加していないこと。
- ③ 消火薬剤には鉛、カドミウム、銅、ニッケル、水銀および亜鉛などの重金属を処方構成成分として添加しないこと。
- ④ 製品は、回収するシステムが確立されていること。また、そのための情報提供がなされていること。
- ⑤ 回収された消火器は、適正な方法で解体され、金属部分および消火薬剤は、適正にリサイクルされること。ただし、リサイクルできない部分は、適正な方法で処理・処分すること。

※認定基準に関する詳細については、(財)日本環境協会エコマーク事務局のホームページの「認定基準の紹介」<http://www.ecomark.jp> をご覧ください。

回収が急がれる家庭の不用消火器

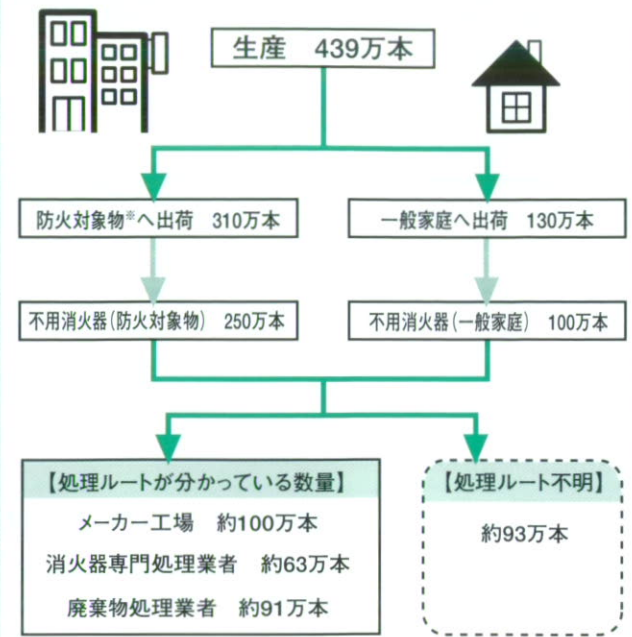
右の図は、平成12年度の調査に基づく消火器の生産からリサイクル・廃棄処理までの流れを示したものです(数値は推計)。メーカーと消火器専門処理業者が回収した約163万本の多くがリサイクルされていると考えられています。

最近では消火器を設置する家庭が増えており、全世帯の約65%が消火器を設置していると考えられます。しかし、耐用年数を過ぎたまま家庭で滞留しているものや、使用済みのものなど、いわゆる不用消火器が約400万本あると推計され、それらの回収と新しい消火器への交換が求められています。

耐用年数を過ぎた消火器には、消火に支障が生じるおそれがあるほか、破裂などによる事故や不法投棄されるといった問題が起きています。

事故を防ぎ、環境を保全するために、耐用年数の過ぎた不用消火器を回収・リサイクルすることが重要といえるでしょう。

■消火器の生産・出荷・リサイクルフロー図



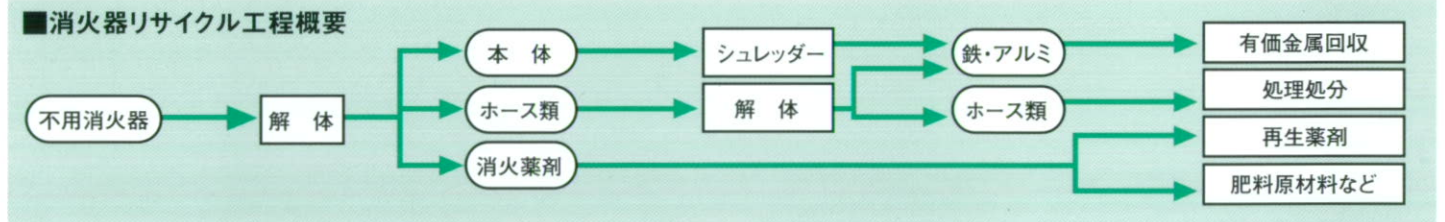
※防火対象物:消防用設備を設置することが消防法で義務づけられている建物。

※消防庁/消火器・防災物品のリサイクル推進検討報告書(消火器編)より作成

消火器リサイクルへの流れ

消火器のリサイクルは下図のように行われています。鉄・アルミからなる本体と、ホース類、消火薬剤の3つに分けられて、それぞれがリサイクルや廃棄処理されます。

最もリサイクルが困難なのは、消火器総重量の約60%を占める消火薬剤です。異物の混入などが障害となり、消火薬剤の多くが廃棄されてきました。現在、リサイクル施設の整備・稼働が進められており、今後は再生消火薬剤や肥料原材料への利用が促進されるものと期待されています。



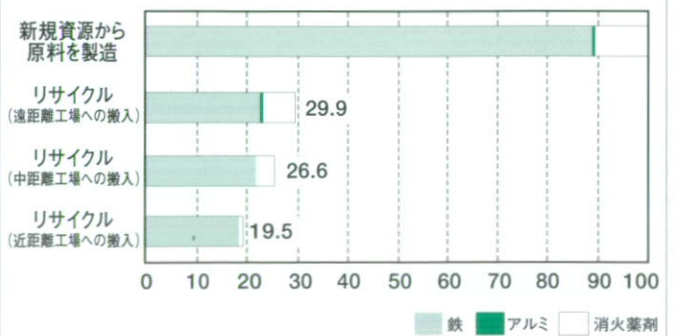
エネルギー消費の低減につながる消火器リサイクル

消火器のリサイクルは、ごみ排出量だけではなくエネルギー消費量の低減にもつながります。

右のグラフは新たに資源を採取して消火器の原料を製造した場合と、リサイクルにより再生原料を製造する場合のエネルギー消費量を比較したものです。リサイクルでは、再生工場への輸送距離について遠距離・中距離・近距離の3つを想定し、それぞれにエネルギー消費量を計算しています。

新規資源から製造する場合を100とすると、遠距離工場への搬入で29.9、中距離で26.6、近距離で19.5となり、リサイクルによる省エネ効果が明らかです。

■消火器に関するエネルギー消費の比較



※消防庁/消火器・防災物品のリサイクル推進検討報告書(消火器編)より作成

製品やパンフレットに関するお問合せ先

(財)日本環境協会では、エコマーク製品のリストやカタログ(有料)情報を提供しています。また、ホームページでは、商品リストの検索、エコマーク商品ショッピングサイト「グリーンステーション」へのアクセスができます。

ホームページ: <http://www.ecomark.jp>

財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9

プライム神谷町ビル2階

TEL: 03-5114-1255 FAX: 03-5114-1257

E-mail: ecomark@japan.email.ne.jp

企画・協力 財団法人 政策科学研究所

